



近江八幡混声合唱団

15周年記念演奏会

2019年5月19日(日)

場所：近江八幡市文化会館大ホール

ご挨拶

近江八幡混声合唱団 団長 古閑 友士

本日は、近江八幡混声合唱団15周年記念演奏会にご来場頂きまして、誠にありがとうございます。

当合唱団は平成16年に結成以来、「合唱を通じ音楽的教養と技術を研鑽し、地域社会の文化の向上に寄与する」を目標に、毎週水曜日の練習と、定期演奏会、市民文化祭、市民音楽祭、慰問演奏会、その他のボランティア演奏会、そしてウイーンやフィンランドへの海外公演などの活動を行ってまいりました。

そして今年、15周年の節目となります演奏会を開催させて頂けます事は、大きな喜びであります。これらは皆様方の変わらぬ温かいご支援の賜物と心から御礼申し上げます。

本日の演奏会では、第1部は合唱曲の名曲中の名曲「水のいのち」を、第2部は皆様よくご存じのイタリアの曲を、第3部は懐かしい曲の数々を、団員感謝の気持ちをこめて、皆様にお贈りいたします。

どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。



メッセージ

近江八幡市長 小西 理

近江八幡混声合唱団が15周年の記念すべき節目の年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。

近江八幡混声合唱団は、合唱を愛する市民の皆さまにより2004年4月に近江八幡では初めての混声合唱団として誕生したと伺っております。

結成以来、市の文化祭や音楽祭への参加、ファミリーコンサート、記念演奏会を中心とした活動を通して、近江八幡市の音楽文化の振興に貢献いただいておりますことに対し、厚くお礼申し上げます。

このたび創立15周年を迎えられましたことは、団員の皆さまが長年にわたり、合唱の練習に励み、団員相互の親睦を深めてこられた成果であり、関係者の皆さまに改めて敬意を表する次第であります。

近江八幡市は、協働による文化芸術創造都市を将来像とし、暮らしの中に豊かさが感じられる創造的、文化的なまちづくりを目指し、様々な取り組みを行っております。本市では、今後におきましても、市民の皆さまが身近な場所で気軽に音楽・文化・芸術に親しむことのできる環境づくりに努めて参りますので、会場の皆さまには、本市の文化振興に更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、近江八幡混声合唱団のますますのご発展、並びにご参会の皆さま方のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

近江八幡市教育長 日岡 昇

近江八幡混声合唱団15周年記念演奏会のご盛会、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げますとともに、合唱団の皆様や関係者の皆様のこれまでのご活動に深く敬意を表します。

貴団におかれましては、2004年の発足以来、市民文化祭、市民音楽祭へのご参加の他、総合医療センターでのコンサートの開催など地域社会の文化の向上のために幅広くご活動をいただいております。また、昨年夫婦都市50周年記念式典においては、素晴らしい歌声で両市の市歌などをご披露され、50周年という金婚式に花を添えていただくとともに富士宮市と本市の絆をより一層深めていただきました。改めて敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

合唱は、単なる音と音との重なりや響き合いだけではなく、人の心と心のつながり、重なり、響き合いであり心のハーモニーであると思います。一人ひとりの心のつながりがないと美しいハーモニーは奏でられません。市民文化祭や市民音楽祭等において貴団が奏でる美しいハーモニーは、市民一人ひとりの心に響き、市全体の文化芸術、とりわけ音楽文化の振興につながっているものと考えます。

教育委員会としまして、各校で音楽会や合唱コンクールを開催していますが、一つの目標に向かい懸命に取り組む児童生徒全員の心が一つになる瞬間がこの合唱であり、この取組が児童生徒の豊かな心の育成につながるものと確信しております。

結びに、貴団にとりましてこの15周年は一つの通過点であるとは思いますが、この記念演奏会を契機としまして、貴団の益々のご発展と、今後も20周年、25周年と末永くご活動、ご活躍いただきますことをご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

Program

第1部

混声台唱組曲

「水のいのち」 作詩：高野 喜久雄 作曲：高田 三郎

1. 雨 2. 水たまり 3. 川 4. 海 5. 海よ

指揮：大橋 久子 ピアノ：岸本 佳美

第2部

混声台唱とピアノのための

「イタリア歌めぐり」 編曲：名田 綾子

1. サンタ ルチア

ナポリ民謡

2. 廿心の唄

作曲：G. ヴェルディ

3. 帰れソレントへ

作曲：E. デ・クルティス

4. わが太陽よ

作曲：E. ディ・カプア

5. フニクリ フニクラ

作曲：L. デンツァ

指揮：大橋 久子 ピアノ：寺嶋 奈緒 パーカッション：中路 友恵

—— 休 憩 ——

第3部

「歌で巡る人生の旅」 指揮：大橋 久子 ピアノ：岸本 佳美 寺嶋 奈緒
パーカッション：中路 友恵

宇宙戦艦ヤマト

作詞：阿久 悠 作曲：宮川 泰 編曲：猪間 道明

銀河鉄道999

作詞：橋本 淳 作曲：平尾 昌晃 編曲：冬木 透

生きるものの歌

作詞：永 六輔 作曲：中村 八大 編曲：吉田 桂子

男はつらいよ

作詞：星野 哲郎 作曲：山本 直純 編曲：北川 昇

あゝ人生に涙あり

作詞：山上 路夫 作曲：木下 忠司 編曲：田中 達也

踊り明かそう

作詞：A. J. Lerner 作曲：F. Loewe 編曲：岩坂 富美子

愛のテーマ

作詞：L. Kusik 作曲：N. Rota 編曲：岩坂 富美子

マイウェイ

作詞：P. Anka 作曲：J. Revaux & C. Francois 編曲：岩坂 富美子

Stand Alone

作詞：小山 薫堂 作曲：久石 譲 編曲：牧戸 太郎

♪ Profile

大橋 久子（指揮）

滋賀県立石山高等学校を経て、相愛女子大学音楽学部声学科卒業。鈴木操、木川田誠各氏に師事。

1977年渡欧し、モーツァルテウム音楽院にて、アーリン・オージェ氏に師事。

各合唱団を率いて国内で数多くの演奏会で指揮をしているが、アメリカ、オーストラリア、オランダ、ハワイ、サイパンにて「コーラスみずぐき」の、ウィーン（オーストリア）、フィンランドにて「近江八幡混声合唱団」の親善海外公演を指揮した。

現在、滋賀県立八幡商業高等学校非常勤講師を勤めるとともに、あかね児童合唱団、コーラスみずぐき、コーラスよし笛、コーラスレインボー、ハートランドレディース、びわ湖八幡ロータリークラブ同好会「におの声」、近江八幡混声合唱団を指揮。滋賀県少年少女合唱連盟理事。

寺嶋 奈緒（ピアノ）

滋賀県立石山高等学校音楽科を経て、大阪音楽大学短期大学部ピアノ専攻卒業。ピアノを福留真循、大谷正和、南沢玲子、柿原宗雅各氏に師事。

コーラスみずぐき、びわ湖八幡ロータリークラブ同好会「におの声」、近江八幡混声合唱団等のピアニスト。「コーラスみずぐき」「近江八幡混声合唱団」の親善海外公演のピアニスト。

現在ピアノ教室でピアノ指導の他、ライリッシュオカリナ連盟認定講師として、県内のオカリナ教室でオカリナを指導。

岸本 佳美（ピアノ）

滋賀県立石山高等学校音楽科を経て、大阪音楽大学短期大学部ピアノ専攻卒業。ピアノを山下啓子、遠山つや、宍田信子、伴奏法を塚田佳男の諸氏に師事。

合唱の伴奏をはじめ、声楽・器楽の伴奏者として幅広く活動している。

現在、廿声合唱栗東カレンジユラ、栗東少年少女合唱団、フラワーコーラス、滋賀銀行経済文化センター第九合唱団等のピアニスト。

中路 友恵（パーカッション）

滋賀県立石山高等学校音楽科を経て、同志社女子大学学芸学部音楽学科打楽器専攻卒業。同大学特別専修課程修了。第3回KOBÉ国際音楽コンクールにおいて特別賞受賞。平成13年度平和堂財団芸術奨励賞受賞。京都芸術祭において毎日新聞社賞受賞。

現在、マリimba・打楽器奏者として関西を中心に、ソロ、アンサンブル、他のジャンルとの共演等幅広く活動している。又、吹奏楽指導や打楽器を使った音楽ワークショップ、後進の指導にも力を入れている。

滋賀県立石山高等学校音楽科、相愛大学音楽学部、各非常勤講師。

乃村 健一（演出）

京都市立芸術大学美術科彫刻専攻修了。舞台演出については演出家・松本重孝に師事。

これまでの演出作品に「人間の声」「消えた男の日記」「魔笛」「泥棒とオールドミス」「子どもと魔法」「仏陀」等があり、2017年9月にはロームシアター京都にて「La Bohème」の演出を、同年12月には京都芸術センターにおいて「小さなオペラ【木の匙】」の企画・演出を手がけるなど様々な作品の演出を担当している。

現在、京都市立芸術大学オペラクラス非常勤講師（美術・技術・演出部を担当）、大阪音楽大学非常勤講師（舞台研究）などを務めるほか、様々なカンパニーの公演で、美術、演出、舞台監督、技術サポート等に当たっている。

「水のいのち」は、作曲者高田三郎氏が高野喜久雄氏の詩「海」に心をつかまれ、本来読まれるものである詩を〈読む詩〉から〈聞いてわかる詩〉へと高野氏に書き直してもらって作りあげた合唱曲です。

高田氏はもともと肉体として生きる人には精神というものもあり、その精神に目と心に向けてもらいたいという強い思いがあって、「時代錯誤」「清潔」「堅物」等の世間の冷笑を覚悟しながら、この曲を発表しました。けれど1964年の初演以来全く宣伝もされなかったのに合唱曲「水のいのち」は広く受け入れられ、今なお全国の多くの合唱団で歌われる名曲となっています。

1. 雨

すべて立ちすくみ、許し合い、また許し合えぬ人びとの上に、
恵みの雨よ降りしきれ、そして井戸を井戸に、庭を庭に、土を土に、
すべてをそのものに返らせよと曲は歌い始めます。

2. 水たまり

雨上がりの水たまり、陽が照れば消える泥水の水たまり。
けれど、濁った水たまりは青い空を映します。
私たちもまた、ちぎり（約束）やまどい（団欒）を大切にして、
高く、清らかなものに焦がれてゆきたいのです。

3. 川

川は川の宿命を生きるしかないのです。
自身は下へ下へと流れるほかないけれど、それでも魚をさか上らせ、
石を抱き、まき上げます。それが川なのです。

4. 海

海は、すべての川を受け入れます。
そして人もまた海に受け入れられに行きます。
すべてを受け入れて生きて死んだ人の死を、
充ち足りた死として海は〈これを見よ〉と
岸边に打ち上げます。

5. 海よ

深く暗い海の底で、雪は下から上へと降りしきります。
すべての始まりである海は、空の高みへの始まりです。
海に戻った雨の水は、水蒸気となって再び空へと上り、
雨となり、はるかな旅をして海に帰るのです。
“水のいのち”よ、“水のたましい”よ、“人のたましい”よ、
高みを目指して上りゆけと曲は歌い上げます。

1. 雨

降りしきれ 雨よ
降りしきれ
すべて
立ちすくむものの上に
また
横たわるものの上に

降りしきれ 雨よ
降りしきれ
すべて
許しあうものの上に
また
許しあえぬものの上に

降りしきれ 雨よ
わけへだてなく
涸れた井戸
踏まれた芝生
こと切れた梢
なお ふみ耐える根に

降りしきれ
そして 立ちかえらせよ
井戸を井戸に
庭を庭に
木立を木立に
土を土に

おお すべてを
そのものに
そのもののてに

2. 水たまり

わたちの くぼみ
そのの このの
くぼみにたまる
水たまり
流れるすべも めあてもなくて
ただ
だまって
たまるほかはない
どこにでもある 水たまり
やがて
消え失せてゆく
水たまり
わたしたちに肖(に)ている
水たまり

わたしたちの深さ
それは泥の深さ
わたしたちの言葉
それは泥の言葉
泥のちぎり
泥のうなずき
泥のまどい

だが
わたしたちにも
いのちはないか
空に向う
いのちはないか
あの水たまりの にぶった水が
空を うつそうとする
ささやかな
けれどもいぢずな いのちはないのか

うつした空の
青さのように
澄もうと苦しむ
小さなころ
うつした空の
高さのままに
在ろうと苦しむ
小さなころ

3. 川

何故 さかのぼれないか
何故 低い方へゆくほかはないか

よどむ淵 くるめく渦のいらだち
まこと 川は山にこがれ
きりたつ峰にこがれるいのち
空の高みにこがれるいのち

山にこがれて 石をみごもり
空にこがれて 魚をみごもる
さからう石は 山の形
さかのぼる魚は 空を耐える

だが やはり 下へ下へと
ゆくほかはない 川の流れ

おお 川は何か
川は何かと問うことを止(や)めよ
わたしたちもまた
同じ石を 同じ魚を みごもるもの
川のこがれを こがれ生きるもの

4. 海

空をうつそうとして
波一つなく 凪ぐこともある
岩と混じれなくて
ひねもす
たけり狂うこともある

しかし
凡(すべ)ての川はみな
そなたをさして常に流れた
底に沈むべきものは沈め
空にかえすべきものは
空にかえした

人でさえ 行けなくなれば
そなたを さしてゆく
そなたの中の 一人の母をさしてゆく

そして そなたは
時経てから 充(み)ち足りた死を
そっと岸边にうち上げる
みなさい
これを 見なさい と云いたげに

5. 海よ

ありとある 芥(あくた)
よこれ 疲れはてた水
受け容れて
すべて 受け容れて
つねに あたらしくよみがえる
海の 不可思議

休まない 汀(なぎさ)
波の指 白い指 くりかえし
うまず くりかえし
数えつづける
海の 不可思議

くらげは 海の月
ひとでは 海の星
海蜃 海の馬 空にこがれ
あこや貝は 光を抱いている

そして 深く暗い 海の底では
下から上へ
まこと 下から上へ
雪は
白い雪は 降りしきる

おお 海よ
たえまない 始まりよ
あふれるに みえて
あふれる ことはなく
終るかに みえて
終ることもなく
億年の むかしも いまも
そなたは
いつも 始まりだ
おお 空へ
空の高みへの 始まりなのだ

のぼれ のぼりゆけ
そなた 水のこがれ
そなた 水のいのちよ

たとえ 己の重さに
逆らいきれず
雲となり
また ふたたび降るとしても

のぼれ のぼりゆけ
みえない つばさ
いちずな つばさ あるかぎり
のぼれ のぼりゆけ
おお

出演者紹介



岡田 なを子
木村 棘々
多田羅 敏子
福澤 義巳
村田 みよ子

片山 祐里
嶋影 淳子
筒井 良美
福森 恵子
和田 はつ子

鎌田 弘美
○島田 茜
名倉 恵美子
増田 ひとみ

木村 典子
嵐本 正子
平内 幸子
眞野 美和子

飯田 浩子
小泉 和世
立花 初美
濱田 千春

石井 喜代子
佐田 さよ子
田中 愛子
堀川 宣子

犬井 道子
杉浦 ひで
○中西 理葉
吉村 和子

久保 紀子
竹村 敬子
西川 洋子
吉村 芳子

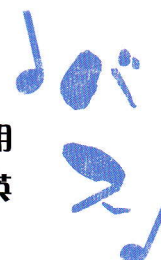


古閑 友士
細井 昇

○小西 理
○山田 恒雄

築山 雅彦
山本 康弘

坪井 清



植田 孝司
濱野 賢朗

小澤 健二
松岡 章

佐伯 徹
村西 耕爾

西澤 道明
横田 克英

○印：賛助出演者

